

2022年3月期 第3四半期決算

2022年1月31日



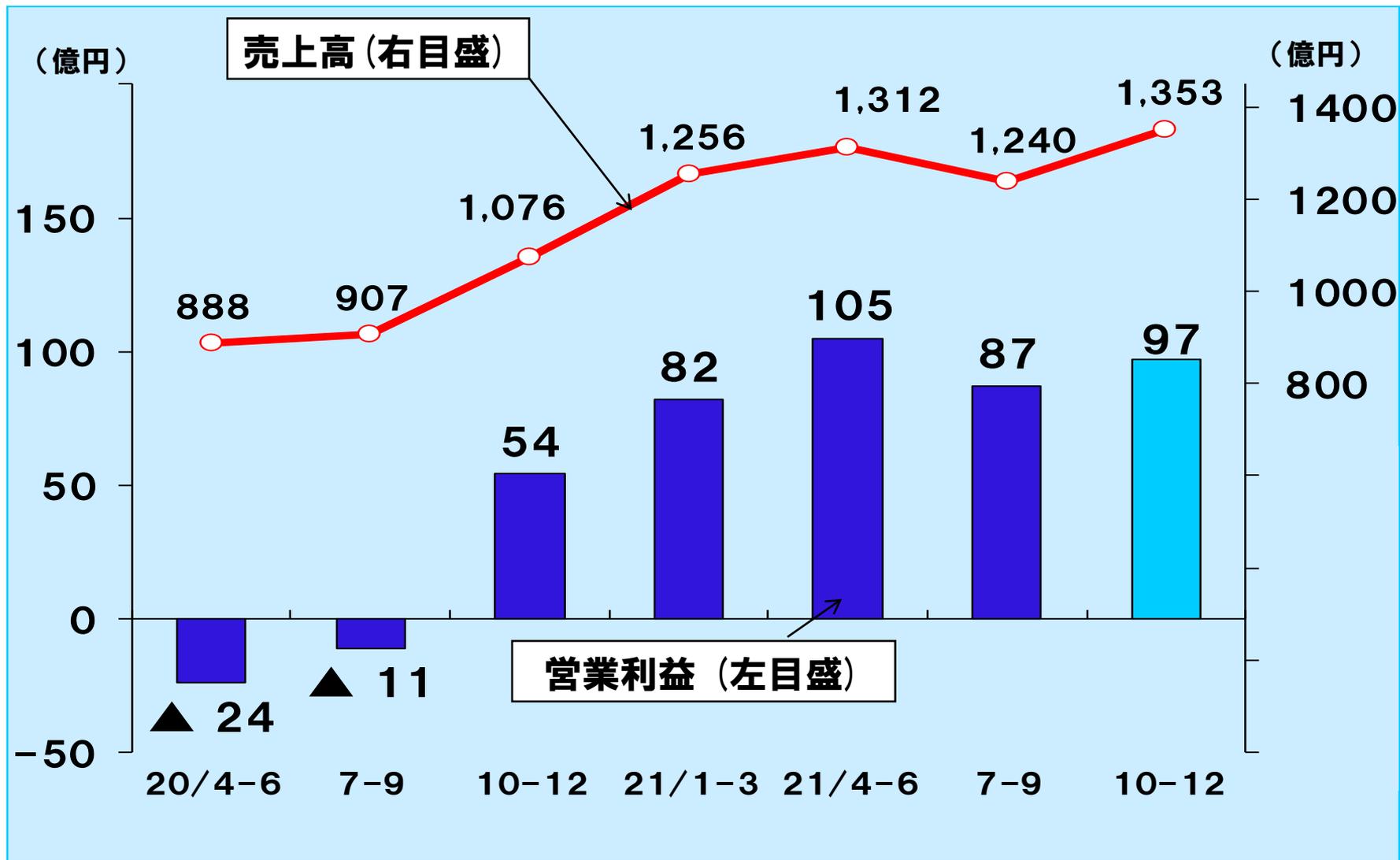
21/4-12実績の概要

(億円)	20年度 4-12実績	21年度 4-12実績	前年同期比
売上高	2,871	3,905	+1,034
営業利益	19	289	+270
経常利益	41	312	+271
当期利益(※)	16	222	+206

※:親会社株主に帰属する四半期純利益

- 新型コロナウイルスの影響を受けた前年から幅広い分野で売上数量が回復し、前年同期比では大幅に増収増益。
- 原材料市況は悪化も、半導体関連好調等により内容構成良化。

売上高・営業利益 実績推移(四半期)



21/4-12 営業利益の変化要因(前年同期比)

(億円)

20/4-12 営業利益		19	
前年度対比変化	原燃料市況	-348	
	数量変化		+295
	価格変化		+207
	内容差他		+94
	変動費		+51
	固定費	-38	
	決算期変更		+9
合計	-386	+656	
21/4-12 営業利益		289 (+270)	

変化内訳

原燃料市況

- ・鉄屑、合金でコストが大幅上昇。

数量変化

- ・機能材料・磁性材料をはじめ、全ての製品群で数量増加。

価格変化

- ・鉄屑/合金サーチャージとベース値上によりプラス。
- ・スライドギャップ影響は△34

内容差他

- ・工具鋼回復、半導体関連は好調。
- ・エンジニアリングは依然厳しい状況。

固定費

- ・生産の回復に伴い発生費用増加。

セグメント別売上高・営業利益(前年同期比)

(億円)

		20年度 4-12実績 (A)	21年度 4-12実績 (B)	前年度差 (B) - (A)
特殊鋼鋼材	売上高	990	1,449	459
	営業利益	▲ 21	22	43
機能材料・磁性材料	売上高	1,035	1,460	425
	営業利益	57	211	154
自動車部品・ 産業機械部品	売上高	580	694	114
	営業利益	▲ 35	43	78
エンジニアリング	売上高	147	131	-16
	営業利益	5	▲ 10	-15
流通・サービス	売上高	119	171	52
	営業利益	13	23	10
合計	売上高	2,871	3,905	1,034
	営業利益	19	289	270

鋼材売上数量(単体)

653 千t

951 千t

298 千t

21/4-12 セグメント別売上高・営業利益

(億円)

		21年度				通期業績 予想値 (10/28公表)
		1Q (実績)	2Q (実績)	3Q (実績)	累計 (実績)	
特殊鋼鋼材	売上高	465	467	517	1,449	1,950
	営業利益	10	5	7	22	29
機能材料 磁性材料	売上高	479	469	512	1,460	1,920
	営業利益	71	68	72	211	232
自動車部品 産業機械部品	売上高	249	216	229	694	940
	営業利益	20	11	12	43	38
エンジニア リング	売上高	37	50	44	131	185
	営業利益	▲4	▲3	▲3	▲10	▲15
流通・ サービス	売上高	82	38	51	171	205
	営業利益	8	6	9	23	26
合計	売上高	1,312	1,240	1,353	3,905	5,200
	営業利益	105	87	97	289	310

鋼材売上数量(単体)

322 千t

312 千t

317 千t

951 千t

1,262 千t

21/4-12主要セグメント営業利益変化 (前年同期比)

(億円)

セグメント			特殊鋼鋼材	機能材料 磁性材料	自動車部品 産業機械部品	エンジニア リング	
20/4-12営業利益			▲21	57	▲35	5	
前年同期対比変化	営業損益	原燃料市況	-248	-81	-19		
		数量変化		+109	+137	+49	
		価格変化		+136	+60	+11	
		内容差他		+53	+31	+17	
		変動費		+21	+21	+9	
		固定費	-29	-15	+6		
		決算期変更		+1	+1	+5	
		合計	-277	+320	-96	+250	-19
21/4-12営業利益			22 (+43)	211 (+154)	43 (+78)	▲10 (-15)	

■ セグメント別売上高・営業利益(10-12期 前四半期差)

(億円)

		2Q (実績)	3Q (実績)	変化
特殊鋼鋼材	売上高	467	517	+ 50
	営業利益	5	7	+ 2
機能材料 磁性材料	売上高	469	512	+ 43
	営業利益	68	72	+ 4
自動車部品 産業機械部品	売上高	216	229	+ 13
	営業利益	11	12	+ 1
エンジニア リング	売上高	50	44	▲ 6
	営業利益	▲ 3	▲ 3	0
流通・ サービス	売上高	38	51	+ 13
	営業利益	6	9	+ 3
合 計	売上高	1,240	1,353	+ 113
	営業利益	87	97	+ 10

鋼材売上数量(単体)

312 千t

* 317 千t

+5 千t

*期末調整
+11千tを含む

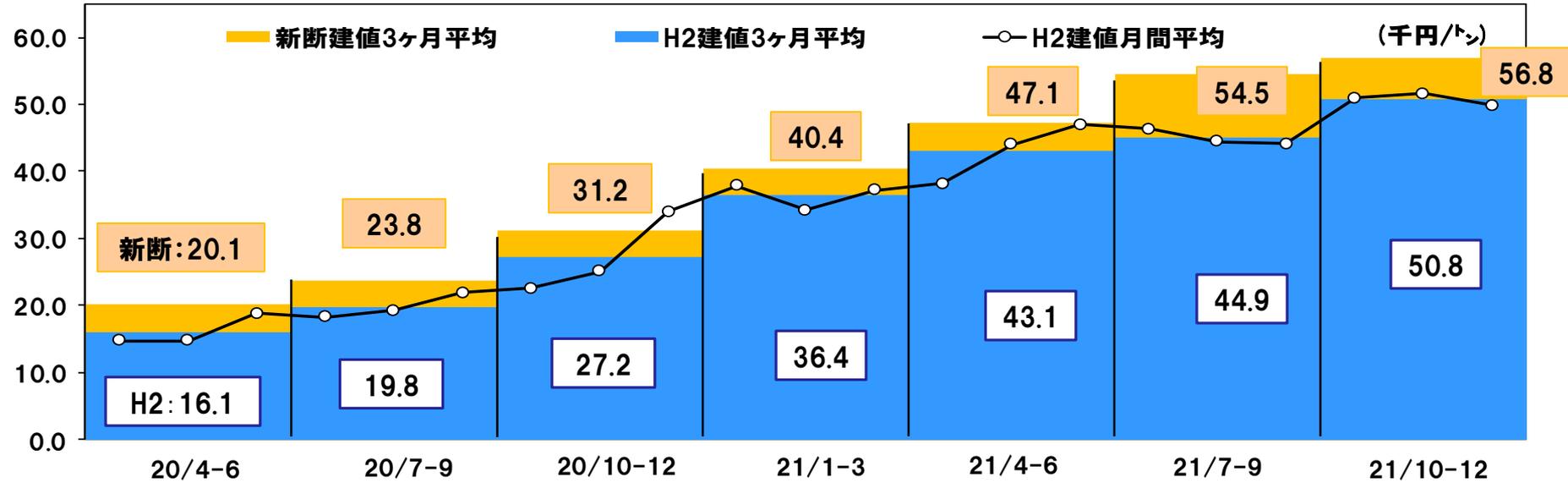
特殊鋼鋼材：原材料市況の悪化あるも、スライドギャップ解消(+12)やベース値上により価格改善。数量面では自動車減産も軸受産機、工具鋼の売上が増加。

機能磁性：原材料市況悪化も、SUS(半導体関連含む)の売上増加や在庫評価益などのスポット要因(+7)もあり増益。

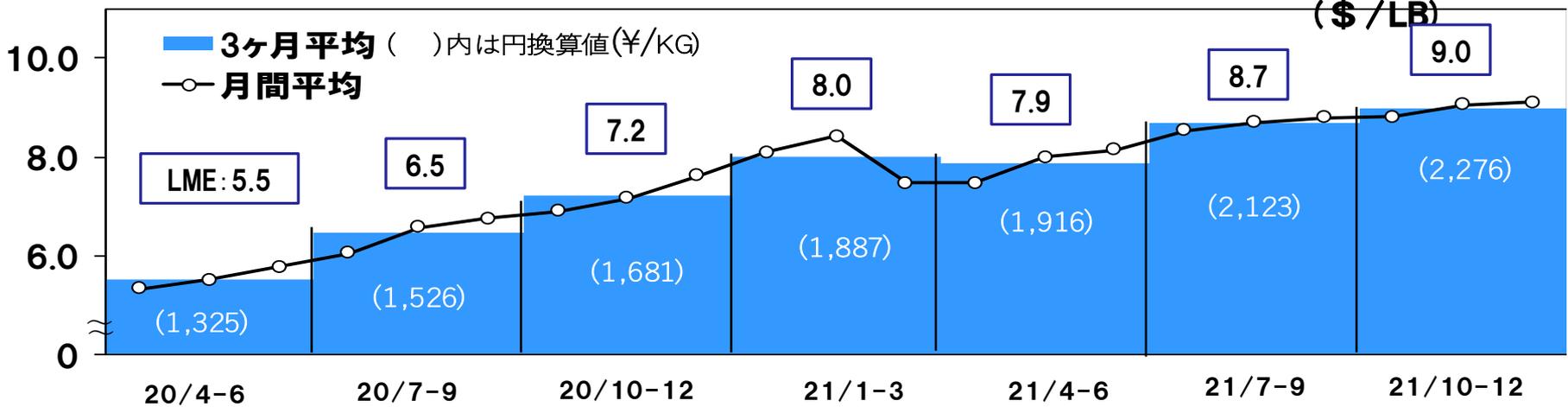
自動車産機：自由鍛造品が堅調に推移。

原料市況(鉄スクラップ・ニッケル)

<中部地区H2、新断建値>



<ニッケルLME価格>



21/4-12 市況実績

	単位	21年度 4-9実績	21年度 10-12実績 (10/28公表 前提差)
鉄スクラップ 上段:中部H2建値 下段:中部新断建値	千円/t	44.0	50.8 (-3.2)
		50.8	56.8 (-3.2)
ニッケル (LME)	\$/LB	8.3	9.0 (±0.0)
原油 (ドバイ)	\$/B	68.3	76.7 (+6.7)
為替レート (TTM)	円/\$	110.8	114.7 (-0.3)

21/4-12 経常利益・当期純利益について

(億円)

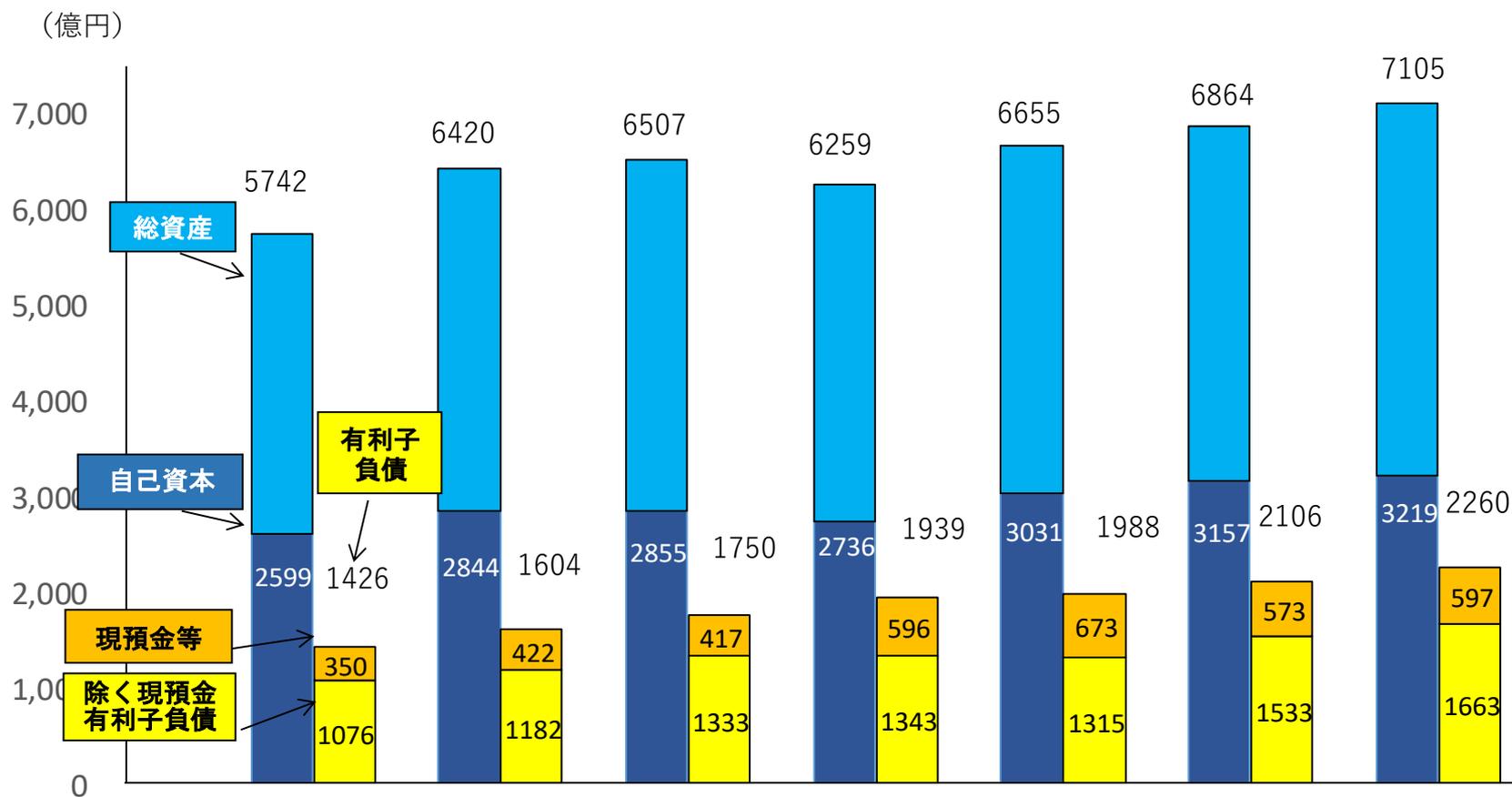
営業利益	289
営業外収益・費用	23
経常利益	312
特別損益	27
法人税等 (※)	▲117
当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)	222

▶ 特別損益

投資有価証券売却益	+54
減損損失	▲23
その他	▲4

(※) 法人税・
法人税等調整額(含む税効果)・
非支配株主に帰属する当期純利益

■ 総資産、有利子負債、D/Eレシオ



	17/3	18/3	19/3	20/3	21/3	21/9	21/12
ROA	4.8%	5.9%	5.3%	3.8%	2.0%	6.1%	6.0%
ROE	6.7%	8.8%	7.4%	3.9%	1.6%	8.3%	9.5%
D/E	0.55	0.56	0.61	0.71	0.66	0.67	0.70

2022年3月期 通期見通し

■ セグメント別売上高・営業利益(10/28予想差)

(億円)

		21年度 前回予想 (10/28)	21年度 今回見直し (1/31)	前回差
特殊鋼鋼材	売上高	1,950	1,980	30
	営業利益	29	29	0
機能材料・磁性材料	売上高	1,920	1,985	65
	営業利益	232	261	29
自動車部品・ 産業機械部品	売上高	940	944	4
	営業利益	38	46	8
エンジニアリング	売上高	185	186	1
	営業利益	▲ 15	▲ 13	2
流通・サービス	売上高	205	205	0
	営業利益	26	27	1
合計	売上高	5,200	5,300	100
	営業利益	310	350	40

鋼材売上数量(単体)

1,262 千t 1,266 千t 4 千t

特殊鋼鋼材：エネルギーコストが悪化も、ベース値上、工具鋼数量増により損益は予想並。
鉄屑価格安は価格変化と相殺。

機能材料：SUSを中心に売上数量増、半導体関連も高位継続。ベース値上も増益要因。

自動車部品：エンジンバルブで増益。コスト改善も寄与。

21年度 営業利益の変化要因（予想差）

（億円）

21年度 営業利益(予想)		310	
予想対比変化	原燃料市況		+10
	数量変化		+20
	価格変化	-9	
	内容差他		+15
	変動費		+3
	固定費		+1
	合計	-9	+49
21年度 営業利益(見通)		350 (+40)	

変化内訳

原燃料市況

- ・鉄屑は予想対比では安値で推移もエネルギーコストが悪化。

数量変化

- ・SUSおよび高合金で増加。

価格変化

- ・原料市況に連動して価格は低下もベース値上は計画対比プラス。
- ・スライドギャップ影響は+2。

内容差他

- ・半導体関連が好調な機能材料を中心に各セグメントで内容改善。

変動費・固定費

- ・コスト改善は計画を上回り実行。

21年度 営業利益の変化要因(前年度比)

(億円)

20年度 営業利益		101	
前年度対比変化	原燃料市況	-506	
	数量変化		+285
	価格変化		+336
	内容差他		+123
	変動費		+53
	固定費	-51	
	決算期変更		+9
	合計	-557	+806
21年度 営業利益		350 (+249)	

変化内訳

原燃料市況

- ・鉄屑/合金でコスト悪化。

数量変化

- ・自動車生産の回復に伴い、全ての製品群で数量増加。

価格変化

- ・鉄屑/合金サーチャージによりプラス。
- ・スライドギャップ影響は△17

内容差他

- ・半導体伸長、工具鋼/自由鍛造品も回復。
- ・エンジニアリングは厳しい局面継続。

固定費

- ・生産の回復に伴い発生費用増加

21年度 利益計画の前提(市況)

	単位	21年 10-12月実績 (10/28公表 前提差)	22年 1-3月見通 (10/28公表 前提差)
鉄スクラップ 上段:中部H2建値 下段:中部新断建値	千円/t	50.8 (-3.2) 56.8 (-3.2)	47.5 (-6.5) 52.0 (-8.0)
ニッケル (LME)	\$/LB	9.0 (±0.0)	9.0 (±0.0)
原油 (ドバイ)	\$/B	76.7 (+6.7)	75.0 (+5.0)
為替レート (TTM)	円/\$	114.7 (-0.3)	113.0 (-2.0)

■ 21年度 経常利益・当期純利益について

(億円)

営業利益	350
営業外収益・費用	20
経常利益	370
特別損益	27
法人税等 (※)	▲137
当期純利益 (親会社株主に帰属する当期純利益)	260

(※) 法人税・
法人税等調整額(含む税効果)・
非支配株主に帰属する当期純利益

■ 配当について

	20年度		21年度	
	中間期	通 期	中間期	通期(見通し)
経常利益 (億円)	▲ 21	126	206	370
当期純利益 ※(億円)	▲ 23	45	128	260
配当 (円/株)	10.0	35.0 (期末25.0)	80.0	180.0 (期末100.0)
配当性向 (%)	—	33.0	26.6	29.5

※ 親会社株主に帰属する当期純利益

23中期方針に則り、年間での配当性向を30%目安とする

(注記)

本資料に記述されております業績見通し等の数値につきましては、現状で判断しうる一定の前提に基づいております。

今後発生する状況の変化によっては異なる業績結果となることも予想されますので、投資等の判断材料として全面的に依拠されることは差し控えて頂きますようお願いいたします。

また今後予告なしに予想数字が変更されることがあります。本資料にある情報をいかなる目的で使用される場合におきましても、各自の判断と責任において使用されるものであり、本資料にある情報の使用による結果について、弊社は何らの責任を負うものではありませんのでご了承ください。